

# リレー・フォー・ライフ 広島に2200人

がん患者と家族、支援者が交代で夜通し歩き続け、がんと闘うきずなを深め合う「リレー・フォー・ライフ・ジャパン2009 in 広島」が、広島市中区の旧広島市民球場で開かれた。中国地方初の試みに実行委員の一人として参加。地域社会でがんと闘う連帯感をはぐくむイベントとしての大きな可能性を感じた。

(伊藤一巨)

# 地域連帯がんと闘う

## 患者・家族・支援者 夜通し歩く

夕闇に包まれたグラウンドを縁取るように、約1200本のろうそくがともる。「ずっと一緒にそくを覆う半透明の紙袋」ともる。「いたいから頑張るね」などの言葉が並ぶ。外野スタンドには大きな「HOPE」の文字。歩く人は減ったものの、夜間も途切れることなく、リレーは

には、願いや祈りを込めた言葉が並ぶ。外野スタンドには大きな「HOPE」の文字。歩く人は減ったものの、夜間も途切れることなく、リレーは

Candlelight Relayのグラウンド。スタンドには「HOPE」の文字が浮かび上がる (9月22日夜)

この催しは9月22、23の両日あり、計約2200人が訪れた。これまでにがん関連のイベントは患者や支援者が占められるケースが多かったが、広島初のリレー・フォー・ライフ(RFL)には一般参加者が目立った。



クリック  
リレー・フォー・ライフ(RFL) 1985年、アメリカで一人の医師が24時間走り続けて友人知人から寄付を募り、がん患者支援に役立ったことをきっかけに始まった。単なる資金集めだけでなく、地域社会でがんと闘う連帯感をはぐくむ催しとして、世界20カ国以上で開かれている。日本では2006年に初めて茨城県つくば市で開催された。07年2カ所、08年7カ所と年々増え、今年は広島を含め14カ所で開催される。

# 活動の広がり期待

この催しは9月22、23の両日あり、計約2200人が訪れた。これまでにがん関連のイベントは患者や支援者が占められるケースが多かったが、広島初のリレー・フォー・ライフ(RFL)には一般参加者が目立った。

濱中和子実行委員長は「一般的な人も巻き込んで、『みんなでがんと闘う意識を持つのがRFLのいいところ』と強調する。

2日間で約140人のボランティアがイベントを支えた。小児がん体験者の女性は「小児がんについて知ってもらってチャイルドが根付くのは未知数だ。

多かったこと。治療や体調の問題で、患者や家族が遠方のRFL会場へ足を運ぶのは難しい。だからこそ、身近なところで

「一般的な人も巻き込んで、『みんなでがんと闘う意識を持つのがRFLのいいところ』と強調する。2日間で約140人のボランティアがイベントを支えた。小児がん体験者の女性は「小児がんについて知ってもらってチャイルドが根付くのは未知数だ。そんな中で印象的だったのは、『広島であったら、RFLに参加できるといい』という参加者の声があったこと。治療や体調の問題で、患者や家族が遠方のRFL会場へ足を運ぶのは難しい。だからこそ、身近なところで

患者自ら手形を押して作った横断幕を先頭にリレーがスタートした (9月22日)



この催しは9月22、23の両日あり、計約2200人が訪れた。これまでにがん関連のイベントは患者や支援者が占められるケースが多かったが、広島初のリレー・フォー・ライフ(RFL)には一般参加者が目立った。

濱中和子実行委員長は「一般的な人も巻き込んで、『みんなでがんと闘う意識を持つのがRFLのいいところ』と強調する。

2日間で約140人のボランティアがイベントを支えた。小児がん体験者の女性は「小児がんについて知ってもらってチャイルドが根付くのは未知数だ。

多かったこと。治療や体調の問題で、患者や家族が遠方のRFL会場へ足を運ぶのは難しい。だからこそ、身近なところで